

<取材のお願い>

2023年12月5日

国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）

さくらサイエンスプログラム推進本部

インド、中国、エジプト、ケニア、南アフリカの政府機関から選抜された
優秀な高校生ら116名が茗溪学園高校を訪問
～ 国際的頭脳循環の第一歩となることを目指した高校生交流 ～

12月13日（水）、JST さくらサイエンス・ハイスクールプログラム（SSHP）第7グループ（今年度の最終グループ）で来日予定（12月10日～16日滞在）の、インド、中国、エジプト、ケニア、南アフリカの高校生99名、引率教員17名、計116名が、茗溪学園高等学校（茨城県つくば市）を訪問し、同校の生徒たちとともに、科学をテーマとした交流活動を行います。SSHPでアフリカの高校生を招へいするのは今回が初めてになります。

さくらサイエンス・ハイスクールプログラムは、「国際青少年サイエンス交流事業（さくらサイエンスプログラム）」の一環として実施されています。参加する海外の高校生たちは、各国の政府機関によって選抜された優秀な生徒たちで、現地のメディアにたびたび取り上げられるなど、「各国の代表」として注目を集める存在です。

* 「国際青少年サイエンス交流事業（さくらサイエンスプログラム）」

科学技術分野における日本と海外の青少年の国際交流を推進する、国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）の事業です。2014年の事業開始以来、約35,000名以上の青少年が来日し、そのうち約7%が学術や就業を目的として再来日しています。 <https://ssp.jst.go.jp/>



来日する高校生らは1週間の滞在期間中に、かずさDNA研究所、海洋研究開発機構（JAMSTEC）、早稲田大学、国立科学博物館、日本科学未来館などを訪問します。

茗溪学園高校では、各国混合の高校生らが10グループに分かれて、「知の理論」「物理学」「科学」「生物学」「環境と社会」「農業」「経済」「心理学」「言葉と文学」「書道」などをテーマとした活動に参加し、ディスカッションや体験を通じた交流をアクティブに展開します。

また午後からは、同校の生徒たちとともに、2015年ノーベル物理学賞受賞の梶田隆章博士の特別講義を受講します。本プログラムにより、海外の高校生のみならず、日本の高校生にとっても海外留学へのモチベーションを刺激するなど、特別な体験となることが期待できます。

つきましてはご多忙中とは存じますが、海外の高校生が茗溪学園高校の生徒と交流をする様子、梶田隆章博士の特別講義に耳を傾ける様子取材して頂きたいようお願い申し上げます。なお、参加者や引率者への個別インタビュー取材もご相談により対応可能です。ご希望の方は担当者までご連絡ください。（本プログラムが今年度最後の高校生プログラムになります。）

■ 本件に関する取材申し込み・お問い合わせ先

JST さくらサイエンスプログラム推進本部企画運営室

https://form2.jst.go.jp/s/kouhou_form（担当：田牧、太田）